



車中泊避難者の支援について



内閣府 (防災担当)

避難生活の環境変化に対応した支援の実施に関する検討会 (第7回)
令和6年4月23日 (火)



- ◆ 車中泊避難をどのように考えるか。
 - “車中泊避難”の意味する内容や位置づけについて
 - 車中泊避難を行うためのスペースとして想定される場所について

- ◆ 車中泊避難を行うためのスペースの平時及び発災時の運営方法についてどのように考えるか。



論点の中間整理

- ・ やむを得ず車中泊避難を実施する避難者等が発生することを想定した支援の検討に当たっては、**エコミークラス症候群等の健康被害のリスクを回避・低減することも含めた広報の在り方についても検討すべき**である。
- ・ 特に、妊産婦等のハイリスクの方など**車中泊を避けるべき方について事前に住民に対し十分な周知を行う必要がある**。
- ・ 車中泊避難の実施に当たっては、**季節性も考慮すべき**であり、夏季であれば高温や熱中症への対策、冬季であれば低温や積雪でマフラーが埋まることによる一酸化炭素中毒等への注意が必要である点に留意する。
- ・ 車中泊避難は、自由に様々な場所で行われると避難者等の状況把握が困難となることから、**事前に車中泊避難場所を指定・公表することで、実施場所を誘導することを検討すべき**である。
- ・ 車中泊避難場所としては、指定避難所の駐車スペースのほかにも、大規模な都市公園や商業施設の駐車場であって、トイレや物資支援のスペースが確保されている場所の活用も想定される。
- ・ 支援拠点の駐車スペースを車中泊避難場所とすることも考えられる。
- ・ こうした車中泊避難場所の検討に当たっては、地震、水害など**災害の種別ごとに、その設置の可否を検討すべき**である。
- ・ 車中泊避難者等への物資支援については、通常避難所において支援を受けることができる水、食料、トイレ等のほかに特に健康管理に係る支援が必要であり、**弾性ストッキング等のエコミークラス症候群の予防に必要な物資の配布が必要**である。
- ・ こうした物資については、平時からの備蓄を進めることも必要である。
- ・ 車中泊避難場所においては、避難者等に対し、**支援情報など必要な情報提供を行うことも検討すべき**である。
- ・ 災害時は行政の体制がひっ迫することが想定され、車中泊避難場所の運営を行政主体で行うことは、難しいと考えられることから、**車中泊避難場所の管理・運営については、避難者等による管理・運営を目指すとともに、外部支援者との連携による支援を検討すべき**である。
- ・ **管理を委託している公共施設や民間施設を利用する場合は、施設管理者と事前に協定を締結するなど、利用が必要な際に円滑に開設できるよう準備が必要**である。
- ・ これまでの災害における車中泊避難の避難者等は、昼間は片付け等のため職場や自宅へ行き、夜間に車中泊避難場所に戻るケースが多く、状況の把握が難しいため、**把握の方法や担い手について平時から検討する必要**がある。
- ・ 車中泊避難場所は、上記のとおり、指定避難所と異なるルール決めが必要となることが想定されることや障害、ペットなどの理由により車中泊を選択する避難者等もいらっしゃることから、状況把握や場所決めなど**運営のルールを事前に協議しておくことも重要**である。
- ・ 車中泊避難場所の**開設期間は、被害の状況等に応じ検討することが必要**であるが、**長期間となることは避け、なるべく短期間で閉所**できるよう、環境の整った避難場所に誘導すべきである。
- ・ 指定避難所の駐車場等を活用する場合は、別途仮設トイレを設置することも検討するなど、避難所避難者等と車中泊避難者等の関係や環境に配慮することが必要である。
- ・ 車中泊避難者等が物資等の支援を受けるに当たっては、支援拠点を活用する場合も考えられる。



第5回での意見

- ・ 車中泊避難者の支援について、災害の種別や規模、時系列によって車中泊避難といっても様々な場面があるため、丁寧に整理して定義することが必要ではないか。
- ・ 車中泊避難場所としてより大規模な広域的な施設も提示されているが、小規模な自治体では施設の確保ができないため、都道府県単位の広域避難場所といった視点での位置づけも検討が必要ではないか。
- ・ 車中泊避難場所の設置について、把握が難しい自宅での車中泊を避けるためにも、大規模な拠点だけでなく、自治会等の単位での支援拠点で、例えば公民館の横の駐車場や公園などの**車中泊避難が可能なスペースがあれば車中泊避難場所として検討しても良い**のではないか。
- ・ 車中泊避難場所を指定・公表することで、実施場所に誘導するについては賛成だが、事前に公表した場合には、**災害の規模によっては車中泊避難場所に避難者が殺到する可能性もある**ので、事前に備えておくことが必要ではないか。例えば、周辺の道路で渋滞が発生した場合にどう対応するのか、車中泊避難場所に収容できない場合にほかの場所に誘導するのか、またどのように誘導するのか、車中泊の駐車スペースをどのくらい確保するのか、満員の場所の情報発信をどのように行うのかなどについて事前に検討が必要ではないか。
- ・ 車中泊避難場所の設置について、様々な場所の活用が想定されるが、**地震の場合と水害の場合で使用できる場所が異なる**ため、そのような検討について漏れがないようにするべきではないか。
- ・ 車中泊避難にはエコミークラス症候群等の健康リスクを伴うため、行政としては、**平時から車中泊の危険性についてチラシ等を作成し、住民へ十分周知するとともに、車中泊避難者用に着圧ソックス等を備蓄しておくことが必要ではないか。**
- ・ 災害時には、民間事業者の大規模な駐車場を利用し、車中泊避難者に対応することになるため、災害時に備え、民間事業者と協定を締結する必要がある。特に車中泊避難にはトイレの設置が不可欠であるため、車中泊避難場所にトイレがない場合は、リース会社等の民間事業者との協定を視野にいれる必要があるのではないか。
- ・ 車中泊の支援について、弾性ストッキングを配布するという記載はあるが、同様に避難所等で掲示されている支援情報についても提供することが必要ではないか。
- ・ エコミークラス症候群等が発生しないように「配慮する」という表現がなされているが、啓発のチラシを撒くことや医療チームが巡回して血栓ができていないかのチェックを行うこと、車内の寝床環境のアドバイスを行うことなど様々なことが想定されるため、**どこまでを行政の役割とするのかについて具体的な記載が必要ではないか。**

“車中泊避難”の意味する内容の整理



- 車中泊避難の扱いについては、避難の“行動”と“生活”で区別してはどうか。現在の災害対策基本法においても、指定緊急避難場所と指定避難所は区別されて規定されており、この緊急の避難行動と避難生活を分けて整理することで支援方策についても整理しやすいのではないかと。
- また、“一時避難”といった避難行動と一時的な避難生活の両方を含むような表現の場合であっても、“生活”の部分に関しては、車中泊避難として整理することとしてはどうか。

“車中泊避難”の範囲

車による避難行動等

避難のための車による移動
(例：自宅等→緊急避難場所)

移動した先での車中による安全確保
(緊急避難場所と同義)

災害からの車両を守るための移動
(例：車両退避場所へ移動)

一時避難

※避難行動については、現行の自治体の整理や各災害種別ごとに示されている整理に従う

車による避難生活（車中泊避難）

避難所での避難生活が必要な方がやむを得ず
車で避難生活を送る場合

下記のいずれかに該当する場合に車で避難生活を送っている者

- ・避難のための立退きを行った居住者、滞在者その他の者を避難のために必要な間滞在させる場合
- ・自ら居住の場所を確保することが困難な被災した住民その他の被災者を一時的に滞在させる場合

※安全確保であっても一定の期間車中で過ごす場合は、その部分について車による避難生活（車中泊避難）含む





○ 車中泊避難の位置づけについて、下記のとおり、整理してはどうか。

- 車中泊避難とは、避難所での避難生活が必要な方がやむを得ず車で避難生活を送ることをいい、緊急時に避難行動として車で避難することとは、異なるものである。
- 災害発生時には、プライバシーの確保やペットの世話など様々な理由によりやむを得ず車中泊を選択する避難者が想定される。このため、地域の実情に応じ、自治体ごとに車中泊避難者の支援方策について、平時から検討・準備することが必要。
- 車中泊避難については、健康面から注意が必要な点も多いことから、車中泊が想定される自治体においては、平時から、
 - ・車中泊の留意事項や事前の準備、車中泊を避けるべき方についての広報活動
 - ・車中泊避難を行うためのスペースの検討・環境整備
 - ・車中泊避難を想定した訓練
 - ・弾性ストッキング等必要な備品の備蓄等を進めることが必要。
- 災害時には、避難所において実施している支援内容に加え、特に、車中泊避難者の健康被害を防ぐための広報や健康管理などの支援を実施することが必要。

車中泊避難を行うためのスペースとして想定される場所及びその要件について



- 車中泊避難を行うためのスペースとして、指定避難所の駐車スペースを活用するもの、大規模な駐車場や都市公園等を活用する車中泊避難者専用のスペースとするもの、在宅避難者等の支援拠点や道の駅等の駐車スペースを活用するもの等が想定される。
- 車中泊避難を行うためのスペースは、避難生活を送るための設備が必要であり、トイレ、給水/排水施設が整備されている、又は発災時に設置できることが望ましい。こうした設備を車中泊避難を行うためのスペースを検討する際の参考となる事項として示してはどうか。

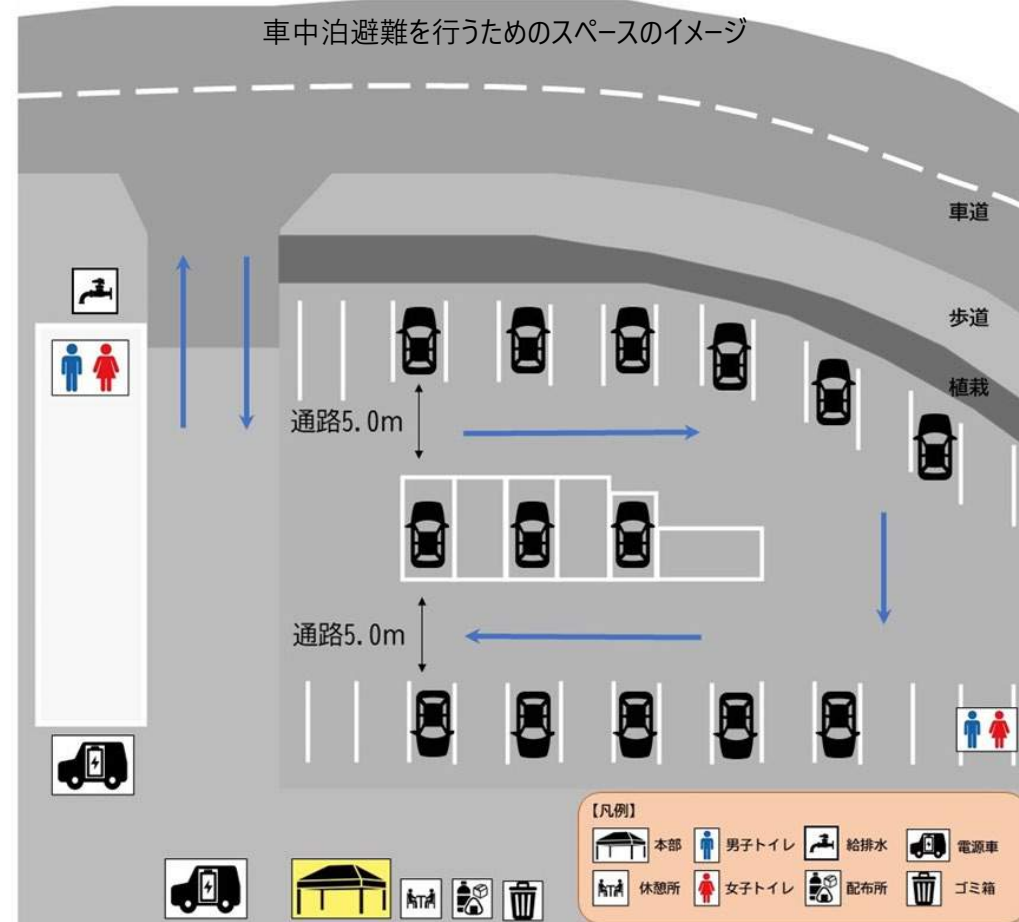
■ 想定される車中泊避難を行うためのスペース

- ・指定避難所の駐車スペースを活用した車中泊避難を行うためのスペース
- ・車中泊避難を受け入れる大規模駐車場や都市公園等を活用した車中泊避難者用のスペース
- ・地域の在宅避難者等の支援拠点や道の駅で駐車スペースが確保できる場合にこれを活用した車中泊避難を行うためのスペース

※自宅の駐車スペースに停車した車で生活する者は、在宅避難者と同様の取扱いと整理

■ 車中泊避難を行うためのスペースが求められる機能

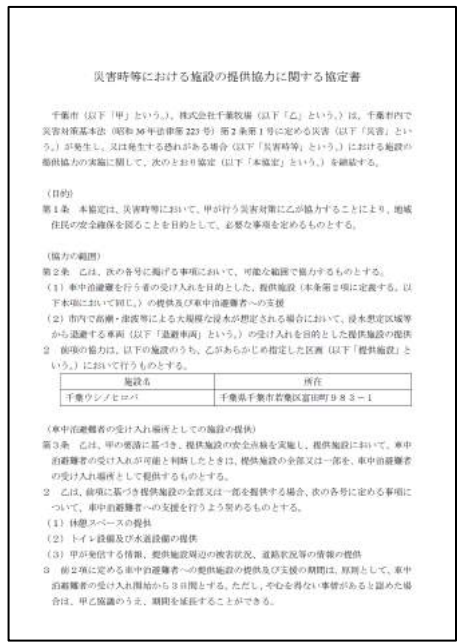
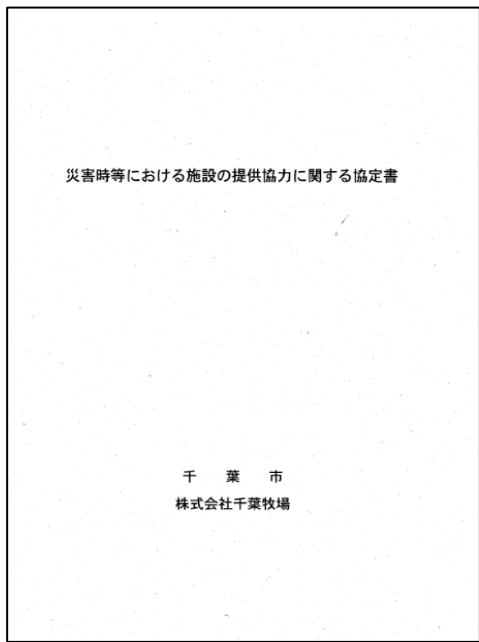
- ・トイレ
- ・給水/排水
 - ※仮設トイレやマンホールトイレ、給水車等により確保できる場合を含む。
- ・電源



(参考) 協定による車中泊避難を行うためのスペースの確保



○ 千葉市では、車中泊避難を行う者の受け入れを目的とした施設の使用や支援について、民間団体と協定を締結しており、協定の締結先は、**災害時には、車中泊用のスペースの提供のほか、トイレ設備・水道設備の提供、被害状況や道路状況といった情報の提供を行うこととされている。**



協定の概要

協力の範囲

- 車中泊避難を行う者の受け入れを目的とした施設の提供及び車中泊避難者の支援
- 市内で高潮・津波等による大規模な浸水が想定される場合において、浸水想定区域等から退避する車両の受入を目的とした施設の提供

施設の提供

- オートキャンプ場の一部にて、休憩スペースの提供、トイレ設備及び水道設備の提供、千葉市が発信する情報、施設周辺の被害状況、道路状況等の情報の提供を実施
- 施設の提供及び支援の期間は、原則として、受け入れ開始から3日間とされ、協議の上期間を延長することが可能

管理運営

- 車中泊避難者の受入場所における開設及び管理運営は、千葉市の責任において実施

費用負担

- 千葉市の要請に基づき(株)千葉牧場が行った協力活動に要した費用は、千葉市が負担するものとし、その金額等は協議のうえ決定



▲協定締結時の様子



▲協定先施設

(参考) 平時の車中泊施設の活用



- RVパークは、『快適に安心して車中泊が出来る場所』として、日本RV協会が定めた要件を満たし、認定された車中泊スペース。
- 認定を受けるためには、余裕のある駐車スペース、24時間利用可能なトイレ、100V電源等の設備を有することなどの要件があり、こうした設備は災害時の車中泊避難生活においても、有効と考えられる。
- 車中泊避難を行うためのスペースの確保に当たっては、こうした平時からの車中泊を想定した施設を活用するなど、フェーズフリーで取り組むことを積極的に検討することも考えられる。

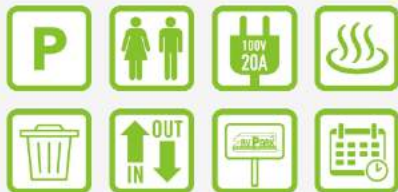
くるま旅のためのインフラ整備

車中泊を安心・安全に楽しめるスポットを



RVパーク開設に必要なこと

1. ゆったりとした駐車スペース (幅4m×縦7m)
2. 24時間利用可能なトイレ
3. 100V電源が使用可能 (1台あたり20A以上推奨)
4. 入浴施設が近隣にあること (車で15分圏内)
5. ごみ処理が可能
6. 入退場制限を緩やかに (いつでも出入り可)
7. 看板の設置 (ロゴは日本RV協会が提供)
8. 複数日の利用が可能



【災害時の支援を想定したRVパークの例】

RVパーク 石狩FIELDは、災害支援用機材を使用して被災時に避難生活の拠点となるよう考えられている。トレーラータイプのシャワールームは、能登半島地震でも被災地に派遣された。



平時の取組について



- 車中泊避難者の支援に当たっては、平時から支援体制の明確化や車中泊避難を行うためのスペースの設置・運営訓練を行うほか、車中泊避難を行うためのスペースの事前公表、必要物資の備蓄、運営マニュアルの作成、住民への車中泊を行うに当たっての実施方法や留意事項の広報等を行うことが必要ではないか。

項目	内容
車中泊避難者への対応の必要性の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・車中泊による避難が発生するか否か、また、その規模等については、地域の実情に応じて様々であると考えられるため、市町村ごとに検討することが必要
組織体制と応援体制の整備・訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・指定避難所の一部を車中泊避難を行うためのスペースとする場合は、避難所の運営体制に車中泊避難者への対応を組み込んでおく ・車中泊避難を行うためのスペースを独立して設ける場合は、管理者を置き、その役割を明確にしておくとともに、市町村内の支援体制を整理しておく ・車中泊避難を行うためのスペースの設置・運営訓練を実施する
車中泊避難を行うためのスペースの事前の公表	<ul style="list-style-type: none"> ・車中泊避難を行うためのスペースについては、事前に公表しておく ⇒p.10参照
車中泊避難者向けの備蓄	<ul style="list-style-type: none"> ・現在実施されている備蓄に加え、車中泊避難者を想定した量の物資を備蓄 ・弾性ストックなど車中泊避難者が必要とする物資を検討し、必要と想定される量を備蓄
運営マニュアルの作成	<ul style="list-style-type: none"> ・車中泊避難者の受付・把握方法 ・ゾーニング（スペース区分、車路の確保、駐車の違い等） ・トイレ、ごみ集積所、受付、物資配布場所等の図面 ・季節性への配慮（熱中症対策、寒冷地での対策） ・渋滞の発生を防ぐための案内方法や発生した場合の対応 ・受け入れ可能数を超えた場合の対応や受け入れ状況の情報発信 <p style="text-align: right;">等</p>
住民への車中泊の注意点等の広報	<ul style="list-style-type: none"> ・車中泊を行う際の方法や工夫 ・車中泊を行うことが望ましくない属性の方の周知 ・エコミークラス症候群等の車中泊を行う際の注意点 <p style="text-align: right;">等</p>

事前の公表の方向性について



- 車中泊避難者の支援や避難生活の観点からは、環境の整った場所で車中泊避難を行ってもらうことが望ましく、各自治体の判断により、車中泊避難を行うためのスペースを事前に公表することが効果的ではないか。
- 指定避難所やその他の避難所、在宅避難者等の支援拠点など、避難者等支援に係る場所を利用して、車中泊避難を行うためのスペースを設置する場合は、それぞれの避難所や支援拠点自体の公表情報に併せて、車中泊避難を行うためのスペースの設置の有無等を公表してはどうか。
- 避難者等支援に係る場所とは別に、車中泊避難を行うためスペースを設ける場合は、車中泊避難専用のスペースとして公表してはどうか。

車中泊避難を行うためのスペース

公表の方向性（案）

公表する内容（案）

避難者等支援に係る場所を活用する場合	指定避難所に車中泊避難を行うためのスペースを設ける場合	<ul style="list-style-type: none"> ・指定避難所を公表する際に、車中泊避難を行うためのスペースがあることを併記 	（指定避難所、在宅避難者等の支援拠点等として公表されている情報に加えて） <ul style="list-style-type: none"> ・受け入れ可能台数 ・車中泊避難者等が利用できるトイレの有無 ・その他必要な事項
	その他の避難所（協定型の避難所等）に車中泊避難を行うためのスペースを設ける場合	<ul style="list-style-type: none"> ・その他の避難所の公表や周知を行う場合は、その際に、車中泊避難を行うためのスペースがあることを併記 	
	在宅避難者等の支援拠点に車中泊避難を行うためのスペースを設ける場合	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅避難者等の支援拠点の周知を行う際に、車中泊避難を行うためのスペースがあることを併記 	
避難者等支援に係る場所とは別に車中泊避難を行うためのスペースを定める場合		<ul style="list-style-type: none"> ・車中泊避難専用のスペースとして公表 <small>※災害対策基本法上の指定避難所の指定制度とは区別する。協定型避難所等と同様に運用上の取扱いとする。</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・名称及び所在地 ・受け入れ可能台数 ・トイレの有無 ・開設される災害の種別 ・その他必要な事項

(参考) 住民への車中泊の注意点等の広報の取組例



車中泊避難における

エコノミークラス 症候群を 予防しよう!

【エコノミークラス 症候群とは】
食卓や水分を十分に取らない状態で、車などの狭い空間に長時間居っただけで空気を吸うなど、体行が長くなり血圧が高まりやすくなります。その結果、血の巡り(血行)が滞りやすくなり、脚に腫れや痛み、息苦しさやめまい、頭痛などの症状が現れることがあります。

！ 症状チェック!
被災前と比べてみましょう!
1つでも該当する場合は 救護所に行くべきです。

- 片側の足がひどくむくんで腫れ、またはひどくむくんで発赤している。
- 片側の足に痛みがある(運動していないのに筋肉痛のような痛み)
- 息苦しい、呼吸が早い、星かけをした時のようなめまいを感じる。
- 顔の色が悪い。

このパンフレットに関する問合せ
新潟県 新潟県防災局防災企画課
〒950-8570新潟市中央区新潟1-4番地1
TEL: 025-282-1606
FAX: 025-282-1607
Mail: ngt130010@pref.niigata.lg.jp

【編集】新潟大学医療保健学部健康科学研究センター 藤田 孝太郎
【制作】防災プロジェクト推進 山崎 水紀夫
【協力】公益社団法人新潟県防災危機管理情報センター

クルマで避難生活 するときの リスクとソナエ

車中泊とは、災害時に避難所ではなく車を避難先として選択すること。半日や1日単位ではなく、数日間車を生活を行うことをいいます。災害時に命を守る避難生活が重要ですが、仮設避難所での感染症への感染への懸念もあり対策が検討される中、プライバシー確保やペットとの同伴避難などを理由に車中泊避難を選択する方が多くなっています。また、大雪での立止や災害時に避難所に行ったら人がたくさんで中に入れないことなども考えられます。一方、車中泊避難には、エコノミークラス症候群や一酸化炭素中毒等の危険もあります。そのため、見守りして車中泊避難を行う時の注意点や備えについて一考をしてみましょう。

- ・自動車避難: 緊急時に車で避難すること
- ・車中泊避難: 避難生活において車を使用

安全な車中泊避難のための 3つのポイント

- ポイント① 安全な場所を選ぼう!**
- ポイント② 車中で体調を崩さない!**
- ポイント③ 必要なモノを用意しよう!**

ポイント① 安全な場所を選ぼう!

チェックしてみましょう!

- 建物などが倒壊しても被害を受けない場所を選びましょう
地震の場合は、建物や電柱、看板などが倒れてくる危険があります。周辺に倒れてきそうな物がないか、駐車する前に必ず確認しましょう。
- ハザードマップ上で災害リスクがない場所を選びましょう
ハザードマップは浸水や土砂災害が発生するおそれがある区域を着色した地図です。駐車場所や避難経路が安全かどうか、事前に確認しておきましょう。
- 近くにトイレがあるか、物資が入るか確認しておきましょう
駐車する近くにトイレがあるか、水や食料などの物資の入手が可能な店舗などが近くにあるかなどを確認しましょう。
- 大雪時はマフラー周りに要注意! 車の周辺や下を確認しましょう
自動車の周辺や下に危険物や可燃物がないか、定期的に確認しましょう。特に横置きは、車のマフラーが首で埋もれてしまうと、排気ガスが車内に滞留して一酸化炭素中毒に陥るおそれがあり、非常に危険です。マフラー周りのこまめな点検が必須です。
- 大雨時の屋外避難は危険! 自動車避難は控えましょう
令和元年日本台風では、屋外で亡くなった方のうち、54%が車での移動中に亡くなりました。避難経路が浸水する前に、早めに避難し、危険を感じたら、車の移動は控えてください。

ポイント② 車中で体調を崩さない!

チェックしてみましょう!

- 水平に、足を伸ばしたまま寝ることができるか確認しましょう
シートに座った状態(屈伸姿勢)のまま寝ることは極力避けましょう。シートに凹凸がある場合は、クッションや毛布などでできるだけ平坦に。また就寝時には荷物を車外に出すなど広い空間を確保しましょう。フラットな状況が保たせられるようなら車中避難生活もできますが、楽しいような避難所等への避難を検討しましょう。
- 断熱、防寒対策を万全にしましょう
窓ガラスや床下からの熱や冷気が入るのを防ぐために、断熱マットなどで対策をしましょう。バスタオルや古新聞(理由:保温性、吸水性が高く自燃りに利用できる)でも代用可。プライバシーの確保にもなります。また、車は密閉性が高いため、こまめな換気を行い、新鮮な空気を取り入れましょう。
- 携帯トイレを用意しましょう
トイレのことが気になって、食事や水分を十分に摂れないと、エコノミークラス症候群を悪化させやすくなります。公共のトイレが使えないことも考え、携帯トイレを必ず用意しましょう。
- 水分補給や適度な運動を心がけましょう
飲料水は1人1日3リットルが目安。普段から飲んで買いつけておくことで安心です。定期的に尿の通尿を行い、エコノミークラス症候群を予防しましょう。
- 少しでも異変を感じたら、ためらわずに119番に連絡をしましょう
寝られたりやすい災害時は、無罪は禁物。すぐに助けを呼ぶよう、スマートフォンやモバイルバッテリーを忘れずに。

ポイント③ 必要なモノを用意しよう!

- クッション、毛布
シートの凹凸を埋めるために使用。防寒・防寒対策にも。
- 断熱マット、バスタオル
断熱、防寒対策に必須。プライバシーの確保にも。
- 弾性ストッキング(着圧ソックス)
エコノミークラス症候群の予防に効果あり。責任に注意が必要。必ず、ご購入時に薬用・ドラッグストアで確認してください。
- 携帯トイレ
1人1日5回を目安に人数分の用意を。100円ショップでも購入可。
- 水、食料
最低3日分×人数分の準備が必要。飲料水は1人1日3リットルが目安。食料は調理不要なレトルト食品や菓子類・栄養補助食品がオススメ。
- 燃料(ガソリン)
災害時は給油が困難に。普段からこまめな給油を心がけて。

避難生活における車中泊避難を行うためのスペースの運営と行政の対応



- 車中泊避難を行うためのスペースは、車により避難生活をおくる場であることから、避難者等による運営を目指すべきと考えられるが、その運営手法や留意点、行政の役割等として考えられる主な内容については、以下のとおりとはどうか。

時期	車中泊避難を行うためのスペースの動きと留意点	市町村の対応（行政の役割）
開設時	<p>・車中泊避難を行うためのスペースを担当者（行政、指定管理者、自治会、自主防災組織等）が開設 ※指定避難所や在宅避難者等の支援拠点等の一部を車中泊避難を行うためのスペースとしているときは、指定避難所の開設者が報告するほか、支援拠点の運営者の報告と併せて実施</p>	<p>・開設している車中泊避難を行うためのスペースの把握、整理</p>
開設中	<p>・避難者等の名簿の作成 ※指定避難所や在宅避難者等の支援拠点等の一部を車中泊避難を行うためのスペースとしているときは、指定避難所の滞在者や支援拠点の利用者名簿と併せて整理</p>	<p>・利用者数、食料等の必要な物資数を集約</p>
	<p>・運営体制の構築 施設管理者、行政職員、避難者等で運営委員会を構築する。 ※指定避難所の一部を車中泊避難を行うためのスペースとしているときは、指定避難所の運営委員会の中に車中泊に関する班を設置</p>	
	<p>・車中泊避難を行うためのスペースの利用者について、市町村側で状況把握が済んでいない者について、調査票等の記入を依頼。 ※指定避難所や在宅避難者等の支援拠点等の一部を車中泊避難を行うためのスペースとしているときは、指定避難所の滞在者や支援拠点の利用者と併せて実施</p>	<p>・車中泊避難を行うためのスペースで把握した情報の集約・蓄積を実施</p>
	<p>・食料、飲料水、支援物資の配布等 ※食料、飲料水、支援物資等の配布等においては、避難者等の氏名や数量などを記録に残す。</p>	<p>・配布する食料、飲料水、支援物資等の不足が生じた場合には、補充等の対応を実施</p>

発災時の車中泊避難を行うためのスペースの運営と行政の対応



時期	車中泊避難を行うためのスペースの動きと留意点	市町村の対応（行政の役割）
開設中	<p>・避難者等の健康管理 各車両を見回り、車中泊避難者等の健康管理を実施する。</p>	<p>・避難所等への巡回と併せて、車中泊避難者等についても保健師、看護師等のチームによる保健指導、巡回相談などを実施する体制を整備</p>
	<p>・支援情報の車中泊避難者等への提供 掲示板への掲示、案内の配布、回覧板の活用、FMラジオを介した情報の発信等をおこなう。</p>	<p>・避難所において提供している支援情報等、支援に係る情報を車中泊避難所を行うためのスペースにおいても提供</p>
	<p>・防火・防犯対策 定期的な巡回警備等の防火・防犯対策を実施する。 ※指定避難所の一部を車中泊避難を行うためのスペースとしているときは、指定避難所の巡回警備等と併せて実施</p>	<p>・警察等との連携を検討</p>
	<p>・民間支援団体との連携 NPO等の民間支援団体の支援が得られる場合には、運営の補助や炊き出しの実施、心のケア、その他の支援の実施を検討することも効果的である。</p>	
		<p>・車中泊避難を行うためのスペースを利用した行政支援の実施 車中泊避難を行うためのスペースに相談窓口や罹災証明書等の申請窓口を設置することも考えられる。</p>
	<p>・デジタル技術の利活用 車中泊避難を行うためのスペースの運営管理は、デジタル技術を活用し効率的に行う。</p>	
閉鎖時		<p>・車中泊避難は、エコノミークラス症候群等のリスクもあることから、早期に解消できるよう避難所の環境整備や応急仮設住宅への移動支援を実施</p>



- ◇ 車中泊避難の意味する内容や位置づけ、車中泊避難を行うためのスペースの平時における公表の方法などについて、追加、修正等すべき事項はあるか。
- ◇ 発災時の車中泊避難を行うためのスペース等の運営と行政の対応について、追加、修正等すべき事項はあるか。
- ◇ このほか、車中泊避難者の支援を実施するに当たって、検討・整理が必要な事項はあるか。